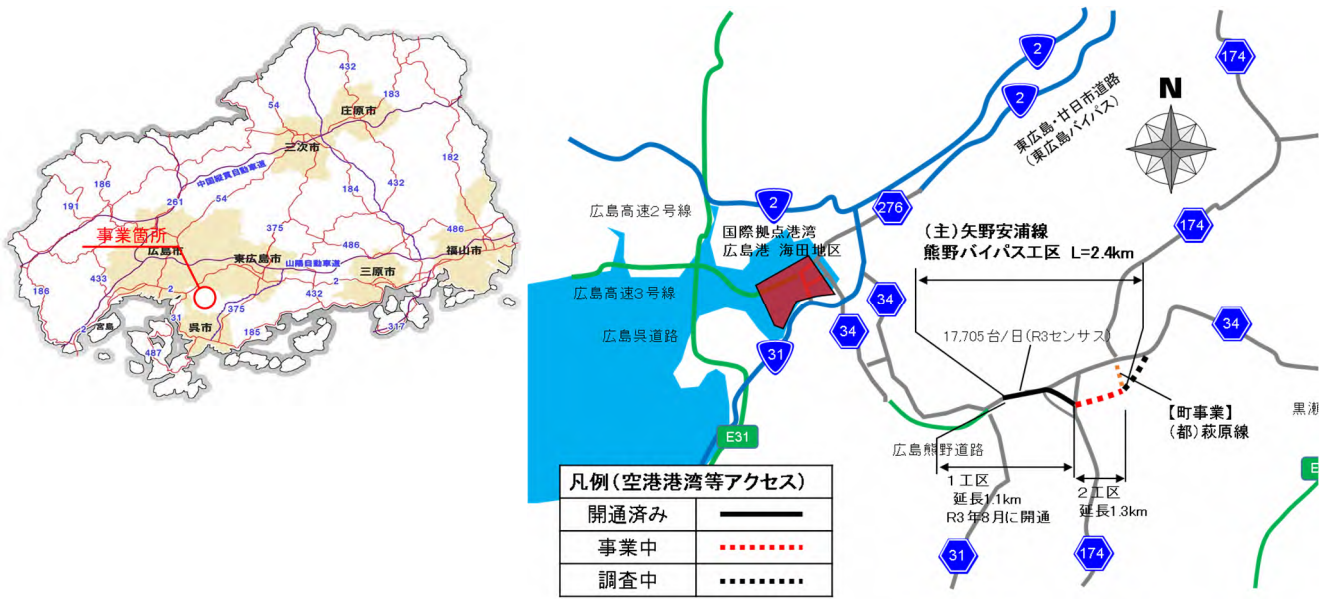


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：伊藤 高

事業名	空港・港湾等アクセス 主要地方道 矢野安浦線 熊野バイパス工区	事業区分	地方道	事業主体	広島県																			
起終点	自：広島県安芸郡熊野町川角 至：広島県安芸郡熊野町萩原			延長	2.4km																			
事業概要																								
<p>主要地方道矢野安浦線は広島市安芸区矢野から広島県呉市安浦町を連絡する延長約26kmの地域幹線道路であり、軌道系アクセスのない内陸地域の交流・経済活動を支え、広島都市圏における広域的な都市間の物流及び交流の役割を担う極めて重要な路線であるものの、熊野町内では慢性的な渋滞が発生している。渋滞緩和、沿道環境の改善、地域間の連携強化等を目的とし、バイパス整備（4車線化）を行うことで物流や人流の活性化を図り、力強く持続的な経済成長につなげていく必要がある。</p>																								
H15年度事業化		H14年度都市計画決定		H16年度用地着手																				
H18年度工事着手																								
全体事業費	約74億円	事業進捗率	約52%	供用済延長	1.1 km																			
計画交通量	10,300～25,100台/日																							
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">(事業全体) 3.1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">8.2</td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 3.1	(残事業)	8.2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 29/82億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事業費</td> <td style="text-align: center;">28/81億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">維持管理費</td> <td style="text-align: center;">1.2/1.3億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/(事業全体) 29/82億円	事業費	28/81億円	維持管理費	1.2/1.3億円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 239/258億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">走行時間短縮便益</td> <td style="text-align: center;">250/270億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">走行経費減少便益</td> <td style="text-align: center;">-6.8/-6.4億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">交通事故減少便益</td> <td style="text-align: center;">-5.0/-5.3億円</td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/(事業全体) 239/258億円	走行時間短縮便益	250/270億円	走行経費減少便益	-6.8/-6.4億円	交通事故減少便益	-5.0/-5.3億円	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">基準年</td> <td style="text-align: center;">令和5年</td> </tr> </table>	基準年	令和5年
B/C	(事業全体) 3.1																							
(残事業)	8.2																							
総費用	(残事業)/(事業全体) 29/82億円																							
事業費	28/81億円																							
維持管理費	1.2/1.3億円																							
総便益	(残事業)/(事業全体) 239/258億円																							
走行時間短縮便益	250/270億円																							
走行経費減少便益	-6.8/-6.4億円																							
交通事故減少便益	-5.0/-5.3億円																							
基準年	令和5年																							
感度分析の結果																								
<table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">(事業全体) 交通量：B/C=3.0～3.2（交通量±10%）</td> <td style="width: 50%;">(残事業) 交通量：B/C=8.1～8.4（交通量±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=2.9～3.5（事業費±10%）</td> <td>事業費：B/C=7.5～9.1（事業費±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=2.7～3.6（事業期間±20%）</td> <td>事業期間：B/C=7.9～8.5（事業期間±20%）</td> </tr> </table>						(事業全体) 交通量：B/C=3.0～3.2（交通量±10%）	(残事業) 交通量：B/C=8.1～8.4（交通量±10%）	事業費：B/C=2.9～3.5（事業費±10%）	事業費：B/C=7.5～9.1（事業費±10%）	事業期間：B/C=2.7～3.6（事業期間±20%）	事業期間：B/C=7.9～8.5（事業期間±20%）													
(事業全体) 交通量：B/C=3.0～3.2（交通量±10%）	(残事業) 交通量：B/C=8.1～8.4（交通量±10%）																							
事業費：B/C=2.9～3.5（事業費±10%）	事業費：B/C=7.5～9.1（事業費±10%）																							
事業期間：B/C=2.7～3.6（事業期間±20%）	事業期間：B/C=7.9～8.5（事業期間±20%）																							
事業の効果等																								
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業区間は、第一次緊急輸送道路に位置付けられている。 ・当該区間の整備により走行性が大きく向上するため、大規模災害直後から発生する救命活動・物資輸送などを迅速かつ確実に実施するなど、大規模災害時の安全・安心の確保という数値に現れない効果が期待できる。 																								
関係する地方公共団体等の意見																								
<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体で構成される「矢野安浦線期成同盟会」等から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。 																								
事業評価監視委員会の意見																								
事業継続を妥当と認める。																								
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等																								
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年12月に広島熊野道路（熊野トンネル）が無料化 ・令和5年3月に東広島・安芸バイパスが全線開通（暫定2車線） 																								
事業の進捗状況、残事業の内容等																								
用地取得率約45%、事業進捗率約52% これまで事業を進めてきた1工区（川角工区）延長1.1kmについては令和3年度までに順次供用している。																								
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等																								
今後は早期完成を目指し、用地買収及び工事を推進していく。																								
施設の構造や工法の変更等																								
<ul style="list-style-type: none"> ・建設発生土を公共事業間流用し、コスト縮減を図る。 ・構造物設計の際に、コストを意識した構造及び施工方法の検討を十分に行う。 																								
対応方針	事業継続																							
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。																							

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。